



## 「たいじょうほうしん帯状疱疹」とお薬について

みなさんは「帯状疱疹」という言葉を聞いたことがありますか？子供の頃水ぼうそうにかかった方で、免疫力が低下したときに「チクチク・ピリピリ」といった痛みを感じるようになった、「赤い斑点ほんてんが出てきた」などといった症状があったとしたら、もしかしたらそれは帯状疱疹かもしれません。今回はそんな帯状疱疹についてお話したいと思います。

### ○帯状疱疹とは？

帯状疱疹とは、60歳代を中心に50歳代～70歳代に多くみられ、「水痘・帯状疱疹ウイルス」によって引き起こされる感染症です。ただし、初めてこのウイルスに感染したときは、水ぼうそうとして発症します。多くの方が、子どもの頃に水ぼうそうを経験されたと思いますが、水ぼうそうが治癒ちゆした後も、「水痘・帯状疱疹ウイルス」は体の中に潜んでいるのです。そして、加齢やストレス、免疫力めんえきりょくの低下によってウイルスが再活性化さいかつせいされることで帯状疱疹を発症することがあります。

### ○帯状疱疹の症状は？

一般に、数日～1週間ほど神経痛しんけいつうのような、チクチク・ピリピリといった痛みやかゆみがあり、その後、紅斑こうはんと水ぶくれが身体の左右どちらか一方の神経に沿って帯状おびじょうに出現し、徐々に痛みが強くなります。発症部位としては、胸、背中、腕などの上半身に多く発症します。また、顔面、特に眼の周囲も発症しやすい部位です。

### ○帯状疱疹の治療薬は？

治療は、抗ウイルス薬が中心となります。抗ウイルス薬を使ってウイルスの増殖ぞうしょくを抑制することで、急性期の皮膚症状や痛みを緩和し、合併症ごういしやうや後遺症を軽減するとともに、必要に応じて痛みに対する治療を行います。ウイルスの増殖は、皮膚症状の発症から72時間（3日）でピークに達します。早期に治療するほど皮疹の重症化や痛みを抑えることができるため、皮疹出現後できるだけ早期の治療開始が重要です。



## <帯状疱疹に使用する薬剤の一例（院内採用薬）>

●**抗ヘルペスウイルス薬（アシクロビル錠、アメナリーフ錠、バラシクロビル錠・顆粒、ピクロックス点滴静注）**：水痘・帯状疱疹ウイルスの増殖を抑える薬です。発疹が出てから3日以内に飲みはじめるのが良いとされ、遅くとも5日以内には投与を開始します。なお、抗ヘルペスウイルス薬の飲み薬は、効果があらわれるまでに2～3日かかることがあります。服用してすぐに効果があらわれないからといって、服用量を増やしたり、途中でやめたりしないで、指示通りに服用してください。また、通常は内服薬での治療となりますが、免疫機能が低下している患者さんや重症の患者さんには注射薬を使用することもあります。

●**鎮痛薬（アセトアミノフェン、非ステロイド性鎮痛薬、ステロイド薬など）**：帯状疱疹の痛みを抑える薬です。一般的にはアセトアミノフェンや非ステロイド性鎮痛薬が、重症例ではステロイドが使用されます。

※帯状疱疹の発疹がよくなった後でも、ウイルスの攻撃によって神経に傷跡が残ってしまい、痛みだけがしつこく残ることがあります。この症状は「たいじょうほうしんごしんけいつう帯状疱疹後神経痛」と言いますが、こちらには、トリプタノール錠（アミトリプチリン）、プレガバリン（リリカ OD 錠）、ワクシニアウイルスせつしゆか と えんしょう ひん ちゅうしゆつえき接種家兔炎症皮膚抽出液（ノイロトロピン錠）などが使用されます。

## ○帯状疱疹は人にうつるの？

帯状疱疹がうつるということはありません。ただし、水ぶくれの中の液体にはウイルスがいるので、水ぼうそうにかかったことのない、乳幼児などには水ぼうそうとしてうつる可能性があります。

## ○帯状疱疹の予防は？

帯状疱疹の予防としては、免疫力を低下させないことが重要です。しっかり栄養と休養をとるよう、心がけましょう。

また、帯状疱疹はワクチンの接種により、発症や重症化を予防することができ、50歳以上の方については、予防接種が可能となっています。

～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、  
医師又は薬剤師までご相談ください。～

